

「食」のプロジェクト

「大阪府中央卸売市場提携事業」2016年度の活動報告

所員 村上喜郁
(経営学部准教授)

はじめに 2016年度の大阪府中央卸売市場提携事業概要

北摂総合研究所「食」のプロジェクトにおける大阪府中央卸売市場提携事業は、2012年7月13日に追手門学院と大阪府中央卸売市場（以下、「市場」とも表記）の間で結ばれた覚書をもととして実施されている。市場側の役割は地域貢献に資する人材を育成する事業への協力、追手門学院側の役割は食の安心・安全、食育等に関する研究・広報活動等への協力と定められた。この役割分担を基礎として、追手門学院大学 経営学部 村上喜郁とその担当ゼミが実際の事業に当たっている。

2016年度については、(1) 第4期 追手井（おうてどん）プロジェクト、(2) 地域での食育活動、(3) JA 全農岐阜との連携事業、(4) 市場に関する学術研究・講演を中心に活動をおこなった。加えて、これら活動について、北摂総合研究所「食」のプロジェクトとして、参加学生が「2016年度 追手門学院大学 学生表彰 優秀賞」を受賞したことを申し添える。

(1) 第4期 追手井（おうてどん）プロジェクト

追手井プロジェクトとは、地方一次産業の活性化や大学の地域貢献、若者の魚・野菜離れなどについて、参加学生がご当地グルメの開発を通じて考える「食育プロジェクト」である。実際の活動としては、魚や野菜を用いた丼を企画、開発、オープンキャンパスでの配布、学内食堂での一般販売など、一連の活動をおこなう。この活動を通じて、参加学生自身が、日本における食の問題、農業の問題などについて考え、また実際にビジネスの現場に触れ、マネジメントやマーケティングの知識・理論を実践で経験することを意図している。

2016年度の追手井プロジェクトは、第4期となる。2013年に「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されことを背景とし、丼の原点とされる料理「芳飯（ほうはん）」を取り上げ、「和食」は魚と野菜を中心としたヘルシーな食事であるという解釈のもと、参加学生がオリジナル丼を企画した。参加学生が、当学入試課、市場、まいどおおきに食堂と直接交渉をおこない、教育後援会総会でのふるまい（2016年6月4日（土）：80食）、オープンキ



学生製作の追手井ポスター



オープンキャンパス学食体験の様子

キャンパス学食体験, (2016年7月24日(日), 8月5日(金), 6日(土):合計247食), 大阪中学生サマーセミナー講座でのふるまい(2016年8月8日(月):19食), 学内食堂での一般販売(2016年11月8日(火), 9日(水):450円, 220食)を実施している。

(2) 地域での食育活動

地域における食育活動として, 主に魚や野菜の摂取促進, まな板の使い分けなどの衛生教育を未就学児から小学校低学年程度の児童向けに実施した。具体的には, バランスの良い食生活や一日の野菜摂取目標について学ぶ「食育輪投げ」, 魚類等と野菜のまな板を衛生面で使い分ける「食育まな板」のイベントをおこなった。加えて, 市場との連携活動として, 「市場の仕組み」について学ぶ講座や市場における価格形成について学ぶ「模擬セリ」もおこなっている。

具体的には, 参加学生による大阪府中央卸売市場「市場開放デー」(2016年11月13日(日):大阪府中央卸売市場)における食育コーナーの企画・運営, ならびに, 茨木市主催「いばらき適塩宣言! フェスタ」(2016年11月23日(水):茨木市生涯学習センター)にブースを出展した。

なお, 例年参加している「茨木フェスティバル キッズ市場」における模擬セリについては, 会場変更に係る市場側の事情から実施しなかった。

(3) JA 全農岐阜との連携事業

2016年度について, 大阪府中央卸売市場を通して JA 全農岐阜より関西地域における若年層に向けたキャンペーンへの協力依頼があり, 参加学生のマネジメント・マーケティング教育に資すると判断し快諾した。

実際の協力内容としては, 参加学生から「大阪府中央卸売市場, JA 全農岐阜の広報による知名度向上」, 「野菜食の啓蒙」, 「経営学部生のマネジメント実践の経験」の3点が挙げられた。これをもとに, 追手門学院大学の大学祭である「将軍山祭」での模擬店出店, 学内食堂である「まいどおおきに食堂」でのキャンペーン企画・運営をおこなった。

まず, 将軍山祭(2016年11月5日(土), 6日(日))では, 野菜摂取啓蒙メニューとして, オリジナル汁ビーフン「野菜たっぷり汁ビーフン」を企画し販売した。ここでは, JA 全農岐阜が推す飛騨野菜「飛騨やまっこ(しいたけ)」と「飛騨トマト」を使用し, 広告した。マネジメント・マーケティング学習の面では, メニュー作成に



将軍山祭での出店の様子



加えて、店舗の設計、調理オペレーション、広報活動等の学習をおこなった。

一方、まいどおおきに食堂でのキャンペーン企画・運営については、当学学生課と協力し、2016年11月30日(水)、12月1日(木)の二日間実施した。当日は、まいどおおきに食堂で販売される定食のすまし汁、小鉢に「飛騨やまっこ」を用いたメニュー(お浸し、焼きしいたけ等)を加え、JA全農岐阜の周知促進キャンペーンに参加学生がおこなった。

(4) 市場に関する学術研究・講演

市場に関する学術研究・講演については、学生による研究調査・発表ならびに、担当教員による講演をおこなっている。

まず、2016年5月17日(火)には例年おこなっている新参加学生による大阪府中央卸売市場見学会をおこなった。水産仲卸業者・青果競り等の見学に加えて、大阪府中央卸売市場の概要、市場流通の仕組み等についての講義を大阪府中央卸売市場 根来実課長より受けた。学生による研究調査・発表については、北摂総合研究所の2016年度 第8回会合(1月26日(木))にて、2016年度大阪府中央卸売市場提携事業に関する学生発表をおこなっている。なお、当日は担当教員である村上喜郁も、課題解決型学習(PBL: Project Based Learning)の観点から大阪府中央卸売市場提携事業についての考察を発表している。また、学生プロジェクトとしては、食育活動のキャップストーンとして、大阪府「平成28年度 食育ヤングリーダー育成支援事業」に参画し、例年通り2017年3月27日(月)開催の「食育ヤングリーダー フォーラム」に参加予定である。

担当教員による講演については、プロジェクト担当の村上喜郁が、「平成28年 大阪府中央卸売市場せり人更新講習会」(2016年9月28日(水))において、学術の視点より「新しい卸売市場の役割 経営戦略論の視点から」と題した講演をおこなった。内容は、国内外の先進的な市場の紹介、卸売市場におけるCSR(企業の社会的責任)論・CVS(共通価値の創造)論、経営戦略論の観点から見たせり人(すなわち仲卸業者)の役割として、製品ライフサイクルと製品ポートフォリオの理論を解説した。

(5) その他

その他事項として、茨木市「商店街×大学生!炊き出し試食会」への参加、「チラシデザインのスキルアップ研修」実施とメディアへの露出を特記する。

村上喜郁ゼミの別働プロジェクトとして動いている茨木市商業団体連合会提携活動と連携して、茨木市「商店街×大学生!炊き出し試食会」(2016年9月17日(土):岩倉公園)に参加した。災害時の炊き出し訓練、特に地域団体との協力関係構築を目指し、大阪府中央卸売市場管理センター株式会社、農事組合法人 見山の郷 交流施設組合、茨木宙いもプロジェクトからの材料提供を得て、オリジナル味噌汁「追味噌汁(おうみそしる)」を187食配布した。

「チラシデザインのスキルアップ研修」については、次年度以降に本格的に「食」のプロジェクトに参加する学生へのデザイン技術向上を目的に、アイディアリミックスクラブ株式会社より現役のデザイナーである奥村雅一氏を講師として招き開催している。ただし、オープンでの研修会としての位置づけを取ったことから、経営学部村上ゼミ生を中心に、地域創造学部 葉山ゼミ生、その他学部生に加えて、教職員の聴講もあり、総計49名(学生40名、教職員9名)の参加者があった。理路が明快で、かつ実践的な研修会となった。

最後に、大阪府中央卸売市場提携事業に関連するメディア露出は、下記の【露出メディア一覧】のとおりである。また、本プロジェクトは、追手門学院大学の広報誌である『Bridge』vol.9(2016年10月)記事「巻頭特集:社会で求められる力を養う次世代型の授業」の作成にも協力している。

【露出メディア一覧】

2016. 08. 05 「真夏の茨木で開催されるイベントはこちら！2016年8月のイベント」『いばジャル』
 2016. 08. 12 「魚と野菜、食べてます？追手井プロジェクト×中央卸売市場が提案する鯛芳飯」『いばジャル』
 2016. 08. 23 「追手井振る舞う」『みなと新聞』
 2016. 09. 03 「大学生と商店街が力を合わせて防災イベント」『サンケイリビング北摂東』
 2016. 09. 10 「店主と学生防災担い手に」『読売新聞』
 2016. 09. 20 「防災力アップへ地域の輪広がる」『朝日新聞』（大阪版）
 2016. 11. 04 「ふわふわの鯛の塩焼きにお吸い物をかけてめしあがれ／追手門学院大学」『LIVING 大阪（北摂）』



茨木市「商店街×大学生！炊き出し試食会」の様子

おわりに 2016年度の大阪府中央卸売市場提携事業のまとめ

まず、本年度の大阪府中央卸売市場提携事業について、事故等が無く、また目標に対して、質・量ともに満足できる内容の事業を完了できたことで、胸をなで下ろしている。特に、期中より開始されたJA全農岐阜との連携ならびに茨木市「商店街×大学生！炊き出し試食会」については、学生の積極的な参加があり、特筆すべき成果であったと考えている。教学面においては、本年度も参加学生により作成中（2017年3月発行予定）である『追手門学院大学経営学学生論集』掲載予定の「追手門学院大学・大阪府中央卸売市場 提携事業 報告書」とSNS（Facebook）を連携させた学年間の引継ぎシステムもほぼ完成し、円滑な課題解決型学習をおこなうことが出来たと思料している。

次年度以降については、上記引継ぎシステムの精緻化ならびに、より一層の学外活動の活性化を目標としたい。

最後に、本提携事業は、参加学生の課題解決型学習の場としての側面を持っている。特にこの点で、大阪府中央卸売市場の皆様、まいどおおきに食堂 ごはんや追手門食堂の皆様、追手門学院大学の教職員の皆様、ならびにご協力いただいた皆様様に、この場を借りてあらためて御礼申し上げたい。

補記

本事業は、追手門学院大学 特色ある研究奨励費制度（2015年度～2016年度）に採択された「「食」をフィールドとした社会科学系 PBL の可能性に関する研究」における事例研究の対象としたことを申し添える。